

幼児の母



昭和十六年
十二月

母の反省

「自分はほんとうにいゝ母であらうか」
母には時々、こうした反省が湧くと聞いて
るます。年の暮は、或は、その反省の
まどまつた形で母に起る時であるかも知
れません。

過ぎて仕舞つては早い一年ですが、そ
の間、いろ／＼のことも、我子の上に、
我子と共にゐる自分の上にあります。
なかには、手を振つて掻き消したいやう
な失敗もあつたかも知れません。どうし
てあんな不注意をしたらうと、悔あても
及ばない思ひのすることもあるかも知れ
ません。又、それ程でないとしても、あ

の時の小言、あの時のそぶり、仕打ち、
返事の仕方、子に濟まなかつたと思ふ
やうなことは、或は必ずしも少なくない
かも知れません。

子のよさは皆、子の力。子のわるさは
皆、私の責任。これが母の心だと聞いた
ことがあります。それまで厳しく身を責
められては、いくら母だつてたまらない
と思ふのは他人の察して、母自身の反省
は、そうしたものかも知れませんか。そ
うして、それこそが、母の有り難いとこ
ろではありませんまいか。拜み度くなる程
責いどころではありませんまいか。

但し、反省は母がひとり、そつとす
ることです。年の暮は、我子の正月を迎
へるに、たゞもう楽しく忙しい中で。

幼稚園から

○この月は、幼稚園は、お正月の話で持
ちきりです。もう幾つ寝るとお正月なの
といふあの叫歌は、ほんとうに十二月の
子どもを心な活々とあらはしたもので、
幼稚園では、それが合唱なのですから賑
かです。わたくし達も、いつしよにお正
月が待ち遠しくなる位でございます。

○年に一度といふよりも、その年のお正
月は一生に一度です。うんと楽しいやう
に準備してあげて下さい。時局下ではあ
りませんが、いろ／＼のもの、配給は不充
分かも知れませんが、だからこそ、お母
さんの苦心によつて、うんといゝお正月
をさせてあげて下さい。

○暮々も、暮の寒さを御注意。暮の忙し
さに、つい／＼お子さんの方に手落ちが
あつたりするものです。風をひかせたら
お正月の楽しみも何もありません。健康
に年を送りて健康に年を迎へて下さい。